

経営学研究科修士課程

【ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）】

経営学研究科修士課程は、建学の精神「学問による人間形成」に基づき、経営学固有の高度な専門知識を生かし、‘協創’を通して地域や国際社会の発展を積極的にリードする人物を育成します。経営学研究科で学んだ学生がこのような人間に成長したことを、以下の資質・能力を身につけたかという視点で評価し、経営学研究科の学位授与方針に従って修了を認定し、修士（経営学）学位を授与します。

1. 学問における学びを通じて、教養を高め、自らの人間形成の基礎を培い、倫理観・責任感を身につけ、常に社会の状況と課題・ニーズを解析し、人類文化の発展に貢献する能力を有している。
2. 大学院での学びを通して、他者を尊重し、他者との対話を通して互いの理解を深め、他者と力を合わせて何かを作り上げていくことを意味する“協創”において、リーダーシップを発揮する能力を有している。
3. 経営学に関する深い学びを通じて、必要な専門的知識を獲得するとともに、既存の知識を批判的に吟味し、経営に関する問題を自ら発見し、に基づいて検証可能な課題を設定し、その課題を解決する能力を有している。

【カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）】

経営学研究科修士課程は、建学の精神である「学問による人間形成」に基づいて定められたディプロマ・ポリシーの修学目標を、全ての学生が到達するように、以下の方針でカリキュラムを構築します。

1. ビジネスイノベーションに関連する基礎的科目として「基礎論」と基礎的な実践科目として「企業研究」を設置する。そして、基本的専門科目として、営利ビジネス系、非営利ビジネス系、共通ビジネス系に区別して「特論」科目を設定する。その評価に関しては、形成的評価を適宜行い、各科目の特性に合わせた様々な評価方法を適用して、可否の判定を伴う総括的評価を実施する。
2. ビジネスイノベーションに関連するより高度な科目として、営利ビジネス系、非営利ビジネス系、共通ビジネス系に区別して「特殊講義」科目を設定する。その評価に関して

は、学内外の多様な評価者が関わる形で形成的評価を行い、また、各科目の特性に合わせた様々な評価方法を適用し、可否の判定を伴う形で総括的評価を実施する。

2. 営利分野あるいは非営利分野におけるマネジメント、アドミニストレーション、イノベーションに関する研究論文を作成するために「演習」科目を設定する。その評価に関して、研究計画の策定及び研究実施の過程において形成的評価を適宜行い、可否の判定を伴う総括的評価に関しては、複数の研究科担当教員が関わる形で、各経営学研究科が示す基準に基づき、学位論文審査および最終試験（口頭試問）において行う。

【アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）】

経営学研究科修士課程では、地域や国際社会の発展を積極的にリードする人物の養成を行います。そのため以下の資質・能力もしくは志向を有する人に入学を期待します。

1. 多様な事象に理解を示し、人々の暮らしにおける課題・ニーズは何かという視点を持って、社会のルールに従って、責任感を持って行動し、自己の理想に向かって活動する意思を有する人
2. 他者との対話を通して自らを高め、他者と協力して社会の課題に取り組むうえで、リーダーシップを発揮する意思を有する人
3. 自らが専門とする経営学分野において、必要となる基礎的な知識と技能を有しており、それを発展させて、地域や国際社会に存在する様々な課題に取り組もうと考えている人

(2026 年 4 月入学者用)